

編集後記

平成30年度の診療報酬改定は、日本皮膚科学会と日本臨床皮膚科医会(以下、日臨皮)が内保連を通して要望したいいくつかの項目のうち、以下の4項目で見直しが行われた。1) DLSTの一連の撤廃(複数薬剤への対価)および点数引き上げ、2) ヒトパルボウイルスB19グロブリンクラス別ウイルス抗体価の適応拡大(要件見直し)、3) ダーモスコピーの算定基準の見直し、4) 鶏眼・胼胝処置の算定回数の制限撤廃。日臨皮の健保担当として要望書作成などに関わってきたが、これまでの懸案事項のうちの多くが認められ、満足できる改定となった。日臨皮の学術大会は第1回から厚生労働省と日本医師会からお一人ずつを招き、基調講演を行っているのだが、厚生労働省や日本医師会とのパイプを保つことが重要であることを再認識した。そのほか、複数の医療機関による訪問診療が可能となる在宅患者訪問診療料1(830点)の新設や、創傷処置の100平方cm以下が、45点から外来管理加算と同額の52点にアップしたことなどが、皮膚科にとってはありがたい改定だったといえる。日臨皮は各ブロックに健保担当の委員を置いているので、今回の診療報酬改定で要望したいことがあれば申し出ていただきたい。

さて、今回の特集は「色素沈着を伴う皮膚病」である。臨床例では肥満細胞腫や形質細胞腫などの特徴的な疾患のほか、多くの炎症性疾患を網羅してきた。また、色素沈着といえば避けて通ることができないシミの治療についても、須賀康先生に総説していただいた。本誌で久々に触れることになった美容関連の論文であるが、多くの読者の参考になったのではないと思う。(T.A.)

次号予告

Vol.40, No.7

特集 細菌感染症(仮)

- ◆editorial 浅井 俊弥
- ◆topics 山崎 修
- 連鎖球菌皮膚感染症の動向
- ◆統計 久保 陽介
- 当科で経験したネコ咬傷の検討 東條 玄一
- 当院における蜂窩織炎、丹毒80例の検討
- ◆臨床例
- 急激に発症した手足に限局する手足部水疱性膿皮症 大槻 友紀ほか
- 肺炎球菌性敗血症に伴う電撃性紫斑病 河崎真理奈ほか
- A群連鎖球菌による上肢の軟部組織感染症——躯幹の紅斑と 全身の浮腫を合併した症例—— 緋田 哲也ほか
- 小範囲デブリードマンで治療可能であった壊死性筋膜炎 ——5年間7例の治療経験より—— 齋藤 健太ほか
- II度熱傷からtoxic shock syndromeを発症した症例 山本祐理子ほか
- 糖尿病に合併した巨大癰の2例 三津山信治ほか
- EGFR阻害薬内服中の成人に発症したブドウ球菌性熱傷様 皮膚症候群 増田百合香ほか
- 右頬部と左手背に生じた多発性ブルリー潰瘍 足立 孝司ほか
- 半身浴により発症した緑膿菌毛包炎 一樹 菜央ほか
- 手指関節破壊を伴う骨髓炎に進展した非結核性抗酸菌感染症 柴尾 加奈ほか
- 持続勃起症を契機に発見されたフルニエ壊疽 加藤 卓浩ほか
- 腎移植後の患者に生じた右大腿皮膚ノカルジア症 橋本(菅野)百加ほか
- 横紋筋融解症を伴いfriction blisterが侵入門戸となった蜂窩織炎 森村真由子ほか
- ネコ咬傷後に生じたPasteurella皮膚感染症 高野 浩章ほか
- 両上肢の丹毒から診断に至った感染性心内膜症 中川 弘己ほか
- ◆学会ハイライト
- 第47回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会学術大会
- 第41回皮膚脈管・膠原病研究会を終えて 金蔵 拓郎
- ◆私の歩んだ道 富田 靖
- ◆皮心伝心 多田 弥生
- ◆蝶の博物詩 西山 茂夫
- ◆診察室の四季 齊藤 隆三
- ◆皮膚科のトリビア 浅井 俊弥
- ◆声(質疑・応答を歓迎します)

皮膚病診療 Vol. 40, No.6(2018)

平成30年5月25日印刷

平成30年6月1日発行

1部定価2,800円(本体)+税 送料82円

年ぎめ予約購読料39,000円(本体)+税

発売所/丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル6階

TEL 03-3512-3256(代表・受注センター) FAX 03-3512-3270

編集人 齊藤 隆三

発行人 山田 淳史

発行所 株式会社協和企画

〒105-8320 東京都港区虎ノ門1-10-5 3階

電話:03-6838-9200(代) 03-6838-9225(編集)

振替口座:00190-0-36746

印刷所 株式会社 恒陽社印刷所

ご購入ご希望の方は直接弊社もしくは書店までお申し込みください。

© 株式会社 協和企画 2018年

・JCOPY <(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。